

こういんめいたち
庚寅銘太刀速報展示

平成25年2月2日(土)～10日(日)

福岡市埋蔵文化財センター

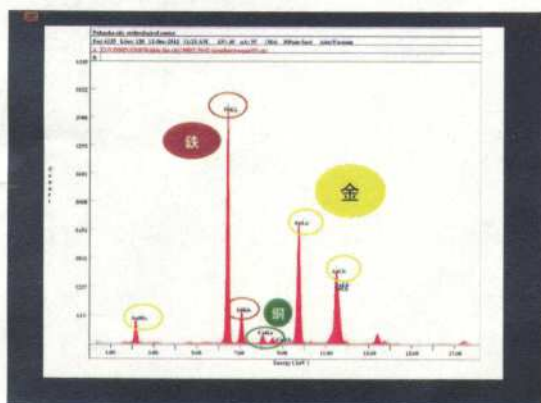
このたび、庚寅銘太刀の文字の材質が金であることが新たに判明しました。古墳出土の金象嵌の銘文刀剣としては国内3例目となり、資料の重要性がさらに高まりました。過去の出土例はいずれも国宝か国の重要文化財に指定されています。



▲ 「作」の一部があらわれました



▲ 金象嵌の顕微鏡写真



←▲ 象嵌線の成分分析(蛍光X線分析)

金の存在を示す赤いピークが3ヶ所にはっきりとあらわれました。

材質は金！それも金が98%、銅が2%でほぼ純金に近い金です。

○庚寅銘太刀とは？

2011年9月、福岡市西区の元岡・桑原古墳群の元岡(もとおか)G6号墳から発見された鉄製の刀のレントゲン写真を撮影したところ、刀に19字の漢字が書かれていました。文字は小さな彫刻刀で彫った溝に、金や銀の細い線をはめ込む、象嵌(ぞうがん)という手法で刻まれています。銘文の内容から西暦570年に作られたことがわかります。

○庚寅銘大刀の保存処理

現在、ここ福岡市埋蔵文化財センターにおいて、刀の保存処理（クリーニングや劣化防止のための処理）をおこなっています。その過程で象嵌が一部顔を出し、材質が金であること、刀は木製の鞘(さや)に収められていたことなどが、わかってきました。

また、3次元のCT画像を用いた新たな調査の試みを、九州国立博物館、九州歴史資料館と協力して進めており、大きな成果をあげています。

今後も、埋蔵文化財センターでさびの中から文字を削り出す作業を進めていきます。

○何が書かれているの？

銘文：「大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果練」

意味：(寅の年、寅の月、寅の日。寅が3つ重なる縁起のよい日に、12回(=何度も)刀を叩き鍛えて、すばらしい刀をつくりました。)

※正月は別名「建寅月」といい、銘文にはないが寅の月。

- ・庚寅(かのえとら・コウイン)の年は60年に一度巡ってきます。また、日についても60日に一度庚寅の日があります。銘文どおりに年と日の両方が庚寅になる確率は、3600分の1!ここに書かれた日付は本当なの?古代史の坂上先生(九州大学)が調べたところ、なんと西暦570年1月6日が庚寅(年)・庚寅(日)。実在するのです!
- ・暦の実在を確認できる日本最古の資料です。
- ・遺物の年代がピンポイントでわかる資料は、考古学的にきわめて貴重です。

古墳時代の金象嵌有銘刀剣 一覧表

	刀剣名	出土地など	所在地	備考
1	辛亥銘鉄剣	埼玉稲荷山古墳	埼玉県行田市	国宝
2	漢中平年銘大刀	東大寺山古墳	奈良県天理市	重文
3	七支刀	(伝世・石上神宮)	奈良県天理市	国宝
4	庚寅銘大刀	元岡G6号墳	福岡県福岡市	

